

Windows10サポート終了まで3ヵ月！求められる対策は？

●サポート終了まであと3ヵ月

Windows10は、2025年10月14日でサポートが終了します。10月以降は“Microsoftによる技術サポートや、セキュリティに関する修正プログラムを受け取れなくなります”。

サポート終了は2年前の2023年4月に発表されていたにも関わらず、5月末現在でWindows10は世界のシェア5割以上を占めており、アップグレードはこれから一気に進むといわれています。

●使い続ければ重大なリスクが！

サポートがないままPCを使うのは、金庫に鍵をかけないのと同じ。Windows10を使い続けられれば、重大なリスクを抱えることとなります。

リスクを知らずに使い続け、ウイルス攻撃を受けて顧客情報漏えいなどが発生すれば、責任問題に発展し、経営の根幹を揺るがす事態になりかねません。Windowsのアップグレードは、企業のセキュリティ対策として必要不可欠といえるでしょう。

◆Windows10を使い続ける場合の考えられる対策：

- インターネットにつながらない
- 社内LANにつながらず、スマートフォンで使用する
- 強固なセキュリティソフトを導入する
- データのバックアップは定期的にとっておく など

●対象となるPCを把握しよう！

社内LANにつながるPC端末のうち、1台でも未対応があればネットワーク全体に影響が生じかねません。まずは、対応が必要なPCの特定から始めましょう。

一般に企業で利用されているWindows10は、大きくつぎの3つに区分されます。

- ◆ビジネスユーザー向け：Windows 10 Pro
- ◆大企業向け：Windows 10 Enterprise
- ◆個人ユーザー向け：Windows 10 Home

なお、工場や医療機器、ATMなどで使用されている“Windows 10 Enterprise LTSC”は、最長2032年1月までサポートが継続されます。

●基幹システムとの互換性は大丈夫？

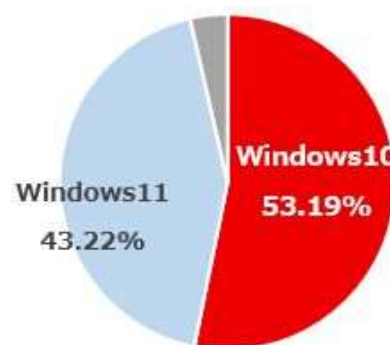


Windows10で使用中の基幹システム（生産、販売、会計、人事など）があれば、“いつからWindows11に対応するのか”をチェックしておきましょう。

対応状況は、メーカーHPなどで情報提供しています。オーダーメイドで開発したシステムでは、早急に開発元に確認しましょう。改修の必要があるかもしれませんので、お早めに！

2025年5月時点デスクトップ向けWindowsシェア

(StatCounter発表)



●対象PCの機能をチェック！

Windows11の搭載には一定の機能が必要です。最近販売されている、11へのアップグレードを前提のPCは心配いりませんが、念のため、PCの機能をチェックしておきましょう。

古いPCを無理にアップグレードすると、動作が不安定になり使えなくなることも。この機会に買換えの検討もよいかもしれません。

Windows11をインストールするための最小要件

CPU	1GHZ以上2コア以上/64ビット互換プロセスッサ
メモリ	4GB以上
ストレージ	64GB以上
ファームウェア	UEFI、セキュアブート対応
TPM	バージョン2.0
ディスプレイ	9インチ以上解像度 720p 以上

●アップグレードにかかる費用は？



Windows10から11へのアップグレード自体は、10月14日まで“無償”で行うことができます。

アップグレードは、PCのバックアップ作業をした上で1台1～2時間ずつの作業となるため、対応する社員の人件費が発生することに。

ほかに、古くなったPCやWindows11非対応の周辺機器の買換え費用や、使用中のシステム改修が必要となった場合には改修費などが考えられます。

●Windows11で業務を効率化！

Windows11はデザインが変わっただけでなく、さまざまな機能が強化されています。

課題だったセキュリティ機能が強化され、マルチタスクが効率化したことで複数の作業の切り替えがスムーズになり、タッチペン、音声入力も簡単になっています。

チャットやビデオ会議などに使われるTeamsは、標準装備になり使いやすくなっています。